



鹿児島日英協会 ニュースレター 第4号
The Japan British Society of Kagoshima
Newsletter No.4 March 2016

会長ごあいさつ ～ニュースレター第4号発行に寄せて～

『鹿児島日英協会ニュースレター』もお蔭さまで第4号発行の運びとなりました。

昨秋の総会では英国大使館ニック・メローズ二等書記官の講演や地元のアイリッシュバンドの演奏をいただき、楽しく充実した総会となりました。平成25年度から3年間に渡って協力団体として積極的に参加してきた鹿児島市主催の『薩英文化祭』も無事終了いたしました。会員並びにご協力をいただきました皆様に心より感謝申し上げます。

今後も、英国との交流、理解を更に促進するため青年部とも協力しながら独自のイベント等を企画運営していく所存です。

今後とも当協会の活動にご理解とご協力をお願い申し上げます。

鹿児島日英協会会長 酒瀬川純行（志學館大学人間関係学部長・教授）

【第24回鹿児島日英協会講演会、公演、懇談会の様子】



目次

- ① 鹿児島日英協会 理事ご挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p.2
- ② 平成27年度第1回理事会・第24回鹿児島日英協会総会・講演会・懇談会のご報告・p.2-3
- ③ 明治維新150年カウントダウン事業『薩英文化祭』～全体レポート～・・・・・・・・・・p.4-5
- ④ 明治維新150年カウントダウン事業『薩英文化祭』～薩英文化祭に参加して～・・・・p.6
- ⑤ ロンドン語学留学 ～My London Experience in 2010～・・・・・・・・・・・・・・・・・・p.7
- ⑥ イギリスひとくちメモ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p.8
- ⑦ 事務局より・・p.8

① 鹿児島日英協会 理事ご挨拶

私が日英協会に入会させていただいたのは協会の高名な方々にお越しいただいた時に送迎並びに鹿児島の御案内をさせていただいた御縁で入会させていただきました。例えば英国大使のディビットウォレン様、そして英国公使の方、お二人とも日本が大好きですと話しておられたのが印象的でした。

又、故三笠宮殿下、そして小和田様ご夫妻は大変気さくで温泉が大好きとおっしゃいましたので、霧島妙見温泉の石原荘のお風呂に御案内いたしましたら喜んでいただき、是非オランダへいらっしやいませんかとお誘いをいただきました。

多くの方々に接する機会に巡り合えた事は私の大きな喜びとなっています。

この度の英国大使館二等書記官ニック・メローズ様はくしくも私の同級生の姪御さんのお婿さんでした。おかげ様で講演の後、親しく話すことが出来ました。

英語が不得手な私でありますのでイギリスには1回しか行った事ありませんが、もう一度イギリスへ行ってみたいと念じております。

鹿児島日英協会は鹿児島にとって最も身近な存在であります。これからもっと交流を密にして多くの事をお互いに学びながら、世の中の人々の平和と幸せの為に尽力してまいろうと思っております。

鹿児島日英協会の益々のご発展を祈念致します。

鹿児島日英協会理事 鎌田善政（鎌田建設株式会社 代表取締役）

② 平成 27 年度*第 1 回理事会・第 24 回鹿児島日英協会総会・講演会・懇談会のご報告

（平成 27 年 10 月 23 日開催、於：鹿児島県医師会館） ※平成 27 年 10 月 1 日～平成 28 年 9 月 30 日）

1. 平成 27 年度第 1 回理事会・第 24 回鹿児島日英協会総会

総会に先立ち、理事会が行われ、平成 26 年度の事業内容、収支決算、監査結果、平成 27 年度事業計画（案）と予算（案）についてご報告、承認いただきました。その他、年度表記の見直し、会員の皆様及びご家族を対象とした「(仮)日英音楽交流の夕べ」開催について、出席していただいた理事と会員の皆様にご承諾頂きました。

お忙しい中、お越しいただいた理事の皆様、ならびに会員の皆様に感謝申し上げます。

引き続き、ご協力とご理解の程どうぞよろしくお願い申し上げます。

なお、次回の第 25 回本協会総会の日程を平成 28 年 10 月 29 日（土）に決定しております。多くの会員様にご出席頂けますよう、どうぞよろしくお願い致します。



2. 駐日英国大使館二等書記官 ニック・メローズ氏 講演会：「イギリス NOW」



英国大使館より、ニック・メローズ氏をお招きし、講演を頂戴致しました。テーマは「イギリス NOW」。英国で2015年に開催された、ラグビーワールドカップと2012年のオリンピック開会式を振り返りながら、現代の英国についてお話し下さいました。英国経済の回復への兆し、スコットランド独立とEU残留に関する国民投票、日本で開催される2019年のラグビーワールドカップと2020年のオリンピックで日英両国が経験を共有し、協力し合う協定の締結等と様々な観点から、今の英国についてお話をして下さいました。そして最後に、豊かな文化と歴史を背景に持つ英国が、今後も世界の変化に適応しながら、国民の価値観を大切に前進していく事を信じていると、締めくくられました。

講演後の質疑応答では積極的にメローズ氏に質問をされる会員の方々や学生さんがおられ、充実した時間を共有できました。

わざわざ遠い鹿児島までお越し頂いたメローズ氏に深く感謝申し上げます。

3. 懇談会・公演

講演会の後、懇談会と公演が行われました。株式会社ベルグ様（山形屋グループ）のご協力の下、美味しい料理と長沢ワインを楽しみました。また、理事の鎌田善政様に焼酎、26年度より入会された水間良裕様にはスコッチウイスキーを頂戴いたしました。お心遣いに心より感謝申し上げます。

懇談会の中で、ケルト音楽の演奏を中心に活躍のFores（フォレス）様の公演を行いました。ホイッスル、ヴァイオリン、ハープとパーカッションのテンポの良い、優しい音色が会場を心地良く包み込んでくれました。また、子供たちが飛び入りで演奏に参加し、とても賑やかな公演となりました。Fores様の今後のご活躍をお祈りしております。

長時間にわたり最後まで参加して下さいました皆様に、深く感謝申し上げます。

鹿児島日英協会 事務局 藏本真衣



Fores 様による公演



Fores 様へ花束贈呈



メローズ氏と懇談会にて

③ 明治維新 150 年カウントダウン事業『薩英文化祭』～全体レポート～

平成 27 年 10 月 24 日 (土)、25 日 (日) の二日間、甲突川河畔にて薩英文化祭が開催されました。鹿兒島日英協会は毎年本イベントに協力団体として参画しており、今回、我々鹿兒島日英協会青年部ではテント内での展示を行いました。当日は荒天が懸念されましたが、幸いなことに風も無く、会場は朝から絶好の散歩日和。開始から賑わいの予感がありました。

また今回、対岸では明治維新の時代を体感できる『薩摩維新ふるさと博』も同時開催されました。双方のイベントは鹿兒島市主催の維新 150 周年記念事業によるもので、共催となることでより多くの人に足を運んで頂くことができたものと思われまます。

さて会場の様子ですが、各テントブース内では鹿兒島と英国にちなんだ展示や商品の販売が行われました。鹿兒島日英協会青年部では、協会の設立経緯やイギリスに関連する資料等の展示。その隣では、この時期にちなんだハロウィンキャンドルの製作体験ブースを展開しました。



また周辺のブースでは、イギリスから伝わった種子島名産のインギー地鶏、地元高校生が作ったスコーンの販売、英国ガーデニングの展示やサツマオレンジと呼ばれるミカンの試食販売等が行われました。特に海外の様々な楽器を用いてパフォーマンスを行うグループ” The Honest rad” さんの楽器パフォーマンスもあり、会場周辺は見た目の賑わいだけ

だけでなく、楽しげな音楽、ジューシーな炭焼きの香りや甘いお菓子の香り、爽やかな紅茶の香りに包まれ、道行く人々も思わず足を止めて楽器の演奏に加わったり、各ブースの品々に見入っていたようです。

また、本イベントではステージも設営され、そちらでも様々な催しやパフォーマンスが行われていました。楽器演奏の演目だけでも、1 日目のオープニングセレモニーでの長崎グラバーパイプバンドさんを始めとして、地元の和太鼓や吹奏楽、海外の様々な楽器を使ったバンド演奏や創作芸能など、多種多様な演目で観客を魅了していました。



二日目のステージ演目における最初のイベントは、『My 経験 in 英国』と題して鹿児島日英協会青年部メンバーを含めた5名が壇上に立ちました。ホームステイしたイギリスでの意外な事柄



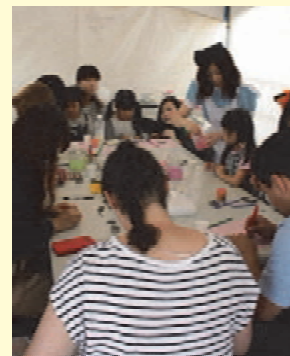
や両国のギャップについて、実体験を交えた紹介が行われました。鹿児島で英語講師をしている司会のダン・フィリップスさんはホームステイしたメンバーとは逆の立場であり、鹿児島に来て火山灰に閉口したことなど、ジョークを交えた流暢な日本語で会場を沸かせていました

また、イベント中に行われた薩摩と英国の歴史的な関わりについての講演についても、ステージ席は満員で大変多くの方に興味深く聴いて頂きました。今回で最後となった本イベントですが、参加者含め沢山の皆様のご協力もあり大盛況のうちに幕を下ろすことができました。

鹿児島日英協会 青年部会員 広報部長 久保田克彦



【青年部テント：キャンドル作家のほのかさんのご指導の下、ユニオンジャックとジャック・オ・ランタンキャンドルを制作】



【薩摩英国館テント：美味しい紅茶でおもてなし】



【The Honest rad テント：薩英文化祭終盤、青年部も演奏に参加】

④明治維新 150 年カウントダウン事業『薩英文化祭』 ～薩英文化祭に参加して～

私は、平成27年10月24、25日、明治維新150年カウントダウン事業の一環である薩英文化祭に、青年部の一員として参加させていただきました。

昨年度までの薩英文化祭とは違い今回は、二日間で行われ天気にも恵まれ、とても賑やかな雰囲気で開催することが出来ました。

当日までは、何度か青年部での話し合いを行い初の試みでもあるパンフレットづくりなど積極的に活動に参加させていただきました。活動に参加することによって、鹿児島とイギリスとの深い関係について今一度学びなおすきっかけにもなりました。

私たち日英協会のブースでは2日間をかけ、ほのかさんの指導によるキャンドル作り体験行いました。難しいのかとと思っていたのですが、子供たちも作れるように考案されていたため、ハロウィンキャンドルやイギリスの国旗をイメージしたキャンドルはとても人気が高く連日たくさんのお客さんが見え、楽しそうに作られていました。出来上がりを見てうれしそうなお客さんたちの笑顔が印象的でした。今回は私も一緒に作らせていただきましたが、とてもかわいいキャンドルが出来上がり満足でした。

そのほかにも、イギリスの風景などのDVDをビートルズやONE DIRECTIONの音楽と一緒に流したり、日英協会で作ったパンフレットの配布などを行い、鹿児島にあるイギリスとの関連事業の紹介もすることができました。

私はイギリスで生まれた「不思議の国のアリス」の衣装に着替えての参加をさせていただきましたが、意外とイギリス発祥ということを知らないお客さんたちもいて、少しでも話題になったことがよかったです。

私自身今回の参加で2回目でしたが、様々な方との交流もでき、また改めてイギリスとの関係性を知ることができ、参加して本当に良かったです。

鹿児島日英協会 青年部会員 池平里香



⑤ ロンドン語学留学 ～My London Experience in 2010～

2010年、当時大学生だった私は、学内の掲示でイギリスへの短期海外研修を知りました。研修内容は、現地にホームステイしながら、午前中は語学学校（Hampstead School of English）で授業を受け、午後は観光、散策など自由行動をするというものでした。私は高校の時にニュージーランドへ行った経験があり、様々な国へ行きたいという好奇心があったため、すぐに参加を決めました。

私が渡英したのは2月中旬だったのですが、その頃は気候が安定せず、毎日雨や雪が降っており、凍えるような寒さでした。ロンドンで感じたことは、まず建物が美しいということ、そしてパブ、博物館、広場が至る所にあるということでした。さらに、イギリスだから白人が多いのではと想像していたのですが、黒人やアジア系の方もたくさんいらっしゃり、バスや地下鉄などでよく見かけました。

私がホームステイした家庭は両親と息子の3人家族で、そのお宅には個室、バス・トイレ、小さなキッチンが備わった離れがあり、ハウスメイトの韓国人の女の子とシェアして3週間過ごしました。彼女とは同じ学校に通っており、一緒に通学したり、買い物に行ったり、夕飯を作ったり、パブに行ったり、夜中まで英語でお互いの国の映画やスポーツ選手の話をしたりと、楽しく交流することが出来ました。

そして語学学校の生徒は、ブラジル、サウジアラビア、韓国、スイス、スペインなど、世界各国から集まっているようでした。ある日、授業の中で隣の席のクラスメイトとペアワークをする機会があった際、相手の言っていることが全く分からず、英語が通じない苦しさを味わったことを覚えています。その日は悔しくて、「とりあえず発言してみる」と心に決め、積極的に授業に参加してみたところ、翌日は会話ができたということが、今でもいい思い出です。

このイギリスでの体験を通じて私は、あることに気付かされました。住んでいる国、話す言葉が違ってても、共通言語である“英語”というツールさえあれば、世界中の人とコミュニケーションが取れるということです。そして、英国についてもっと知りたい、英語がもっと勉強したいと思うようになり、余談ではありますが、それまで心理臨床学科に在籍していた私が、人間文化学科（英語英米文化コース）へ転学科することに決めたまっかけとなりました。このイギリスでの経験があるおかげで、今私が英語に携わるお仕事が出来ていることを幸せに思います。

鹿児島日英協会 青年部会員 鶴田悠里子



公衆電話とダブルデッカー



研修先の語学学校（Hampstead School of English）



ホームステイ先の家

⑥ イギリスひとくちメモ

～ Thimbles (指貫き) (語源は thumb stall、ドイツ語では fingerhut) ～



名所旧跡、著名な作家・作品等を描いた thimbles

本来裁縫で、針の頭を押すために中指にはめて使われたものだが、今ではさまざまな絵やデコレーションが施されコレクター・アイテムとなっている指貫き。歴史は古い。糸と布が導入され始めたおよそ 5,000 年くらい前まで遡ると言われる。

イギリスでも 14 世紀頃までには既に広く使われていたようである。素材は当初皮革であったと思われるが、耐久性が乏しいため、次第に青銅や真鍮、更には銀その他の金属に取って替わられたようだ。木製や、骨、真珠層、鼈甲、象牙、ニッケル、アルミ、白鐵、陶、磁器、金製のものもある。クリスマスプディングに小型の指貫きを混ぜ込んでおき、切り分けられた時にそれが入っていた人には幸運が訪れるとされる。

(文責：酒瀬川)

⑦ 事務局より

大学時代、児童文学を専門とする英国人の先生の授業が大好きだった。金髪で背が高く、小顔なその先生は、いつも教室の机の上に座り、まるで少年のように長い両足をぶらぶらしながら Winnie-the-Pooh (通称、「クマのプーさん」) の本を読んでくれた。おっとりとした心地の良いブリティッシュイングリッシュで午後の授業で朗読して下さると、うとうと、、、いやいや、とても温かい気持ちになった。私にとってのおとぼけ Pooh の声は、今でもその当時の先生の声だ。

この作品には、意外にも感慨深い場面が沢山ある。その一つを紹介する。

"When you wake up in the morning, Pooh," said Piglet at last, "what's the first thing you say to yourself?"
"What's for breakfast?" said Pooh. "What do you say, Piglet?" "I say, I wonder what's going to happen exciting to-day?" said Piglet. Pooh nodded thoughtfully. "It's the same thing," he said.

(Milne, A.A. *The Complete Winnie-the-Pooh*. London: DEAN, 2005. Print. より引用)

食いしん坊 Pooh の性格とその親友 Piglet との関係性がよく描かれている微笑ましい、大好きな場面だ。ささやかな事でも、今日も明日もウキウキ、ワクワクがどこかに潜んでいるはずだ。 (文：藏本)

～ 今後の予定 ～

*第25回 理事会・総会・講演会・懇親会

開催日：2016年10月29日(土)

於：鹿児島県医師会館(鹿児島市中央町8番地1)

【鹿児島日英協会 事務局所在地】

〒890-8504 鹿児島市紫原1丁目 59-1(志学館大学内)

TEL: 099-812-8501 Fax: 099-257-0308

URL: <http://www.shigakukan.ac.jp>

Contact Email: sakasegawa@shigakukan.ac.jp